

館藏品ほか資料紹介 礫石経について

八峠 興

Notes on Museum Collections and Other Materials : Pebbles Sutra (Rekiseki-Kyo)

Kou YATOUGE

はじめに

礫石経とは紙ではなく礫に一字または多字で経典を書いたものである。これを経塚として埋納して題目塔を建てる行為は全国的には中世にはじまり、近世を中心に盛行した。一石経や経碑に関する研究は、当初は経塚における埋納経の一つとされてきたが、現在では極楽往生や現世利益のほか、追善を目的とした功德業として理解されている⁽¹⁾。鳥取県東部ではこうした宗教的な行為は近世から明治を中心に、昭和の初めまで行われていた。

県内での礫石経についての関心は古く、18世紀末に成立したとされる『因幡志』に「一石一字」と表記され、筆者の安倍恭庵は実際に雲山の立岩の周辺を掘り下げ、礫石経を採取した⁽²⁾。鳥取県立博物館（以下、当館）では、三谷巍氏が県内の一字一石経について通観し、県東部では布勢三王山、新興寺、船磯、三か所の礫石経を紹介している⁽³⁾。

その後、倉吉市の大河原経塚⁽⁴⁾で礫石経の発掘調査が行われ、北栄町の妻波古墓⁽⁵⁾でも墨書のある礫石が出土した。全国的には『考古学論究』第3号で礫石経を特集し、この中で是光吉基氏が中国地域の様相のなかで鳥取県内の概要を紹介した⁽⁶⁾。近年では伊藤康晴氏が当館所蔵の因幡国高草郡竹生村東近藤家文書から東近藤家の造立した一字一石塔（宝塔）の経緯を明らかにし、県東部にある経碑を集成した⁽⁷⁾（伊藤2018）。

当館では、鳥取市の布勢山王山から出土した礫石経17点、船磯から出土した礫石経36点、小沢見から出土した礫石経492点を所蔵している。本稿では布勢山王山と船磯から出土した礫石経の全点を図化し、小沢見から出土した礫石経は多数のため主な礫石経を紹介

する。ほか県東部の礫石経の関係箇所について、伊藤氏の集成に新たな事例を追加した。

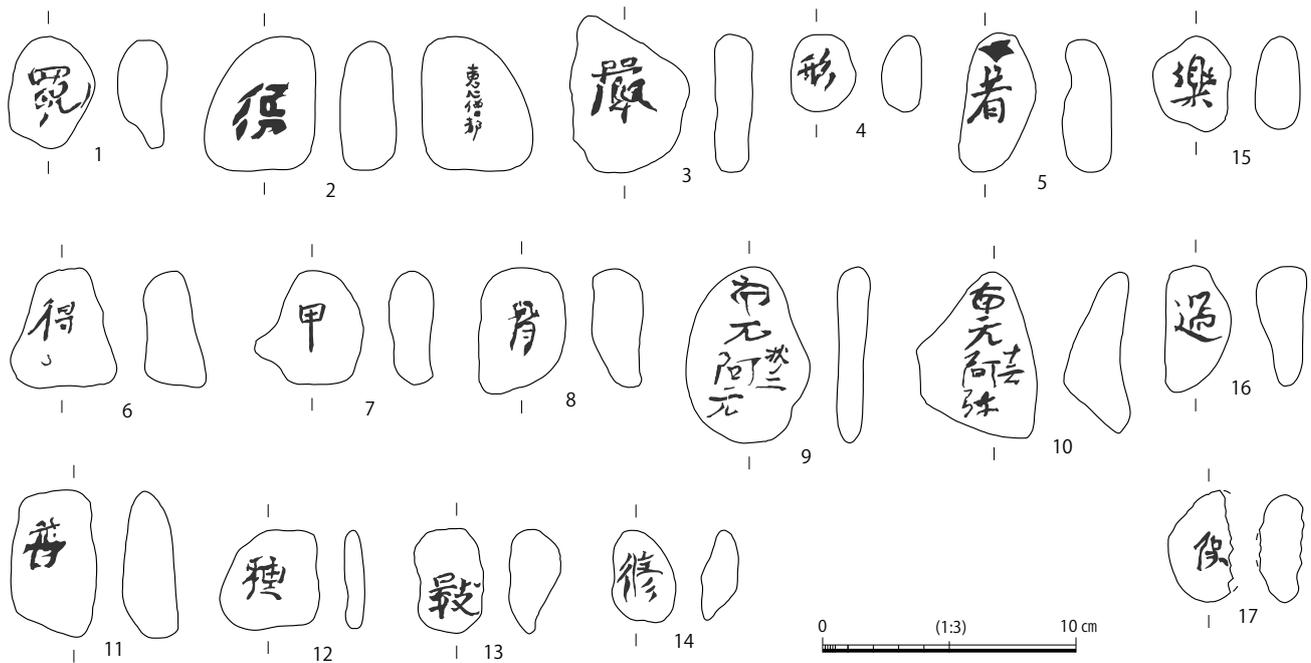
1 布勢山王山出土の礫石経

布勢山王山の礫石経は、昭和19年（1944）11月、日吉神社裏山より出土した。出土位置は一字一石経の経塚（布勢経塚）として登録されている⁽⁸⁾。周辺も含めて経碑は確認できない。

経礫は17点あり、全てに墨痕が認められた。多くは一文字であるが、裏面に僧名の記されている礫が1点、「南無阿弥」と多字記された礫が2点ある。礫の法量は、平均値で長径4.9cm、短径3.5cm、厚さ1.8cm、重さは43.7gである。小型の丸石もあるが、多くは角のある比較的大ぶりの礫を使用する。

S1は「𠄎カ」、S2は表：「□」。左側は行人偏、右側は不明。裏面に「恵心僧都」とある⁽⁹⁾。文字は強弱がなく、輪郭のみ明瞭なことから印判とみられる。礫には凹凸があるので、原体は肥前陶磁器を参考にすると木や石ではなく蒟蒻もしくは寒天状か。なお、手書きではなく印判で裏書きした理由は不明である。S3は「巖」、S4は「形」。S5は「者」で、文字の上に不明墨痕あり。S6は「得カ」あるいは「禅カ」、S7は「甲」、S8は「肴カ」。S9とS10は多字一石経である。いずれも中央に「南無阿弥」、右側には判読不明の文字が記されている。S11は「普」、S12は「種」、S13は「□」。S14は「修」、S15は「楽」、S16は「過」、S17は「保」と読める。

経碑が確認できないため礫石経の文字から原典を推測する。当時書写された経典は一般的には法華経が多いものの、S9とS10に「南無阿弥」の記載があることから、『無量寿経』、『観無量寿経』、『阿弥陀経』



第1図. 布勢山王山の礫石経 (実測図)

第2表. 船磯の礫石経 (一覧)

△: 残存値

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
18	945-018	進	6.2	4.4	1.0	44
19	945-019	溢カ	5.6	4.7	1.2	46
20	945-020	聚	5.3	3.9	1.1	41
21	945-021	然	5.5	4.5	1.7	57
22	945-022	於	5.0	4.1	1.0	40
23	945-023	受	5.0	4.4	1.3	48
24	945-024	徧	4.1	3.4	1.5	29
25	945-025	穩	3.7	△3.5	1.2	29
26	945-026	等	5.6	4.0	1.0	31
27	945-027	佛	3.8	3.6	1.6	37
28	945-028	□	4.6	3.5	2.4	55
29	945-029	往	4.9	2.9	1.6	33
30	945-030	北	3.9	3.5	1.2	30
31	945-031	教	4.5	3.6	1.3	18
32	945-032	願	4.4	2.2	2.1	32
33	945-033	若	3.7	2.5	0.9	13
34	945-034	入	3.6	2.7	0.8	10
35	945-035	見	△3.7	2.6	1.9	21
36	945-036	解	3.1	2.6	0.8	10
37	945-037	清	3.8	2.7	1.6	25
38	945-038	市カ	5.7	2.9	2.4	51
39	945-039	見	5.6	4.1	1.2	34
40	945-040	成	5.8	2.8	1.8	39
41	945-041	能	3.9	3.6	1.4	27
42	945-042	礙カ	5.1	4.5	3.0	88
43	945-043	我	3.7	3.6	1.2	16
44	945-044	□	3.7	2.9	1.7	22
45	945-045	文字ではない	3.9	2.9	2.5	40
46	945-046	来	4.7	2.7	2.0	31
47	945-047	王	3.7	3.4	1.8	31
48	945-048	佛	3.6	3.5	2.3	29
49	945-049	廻カ	5.8	3.4	2.2	47
50	945-050	随	5.5	3.2	2.0	47
51	945-051	講	3.5	3.2	2.2	33
52	945-052	二	3.9	2.7	1.0	15
53	945-053	大	3.2	2.4	1.5	18
平均値			4.5	3.4	1.6	33.8



2 (表面)

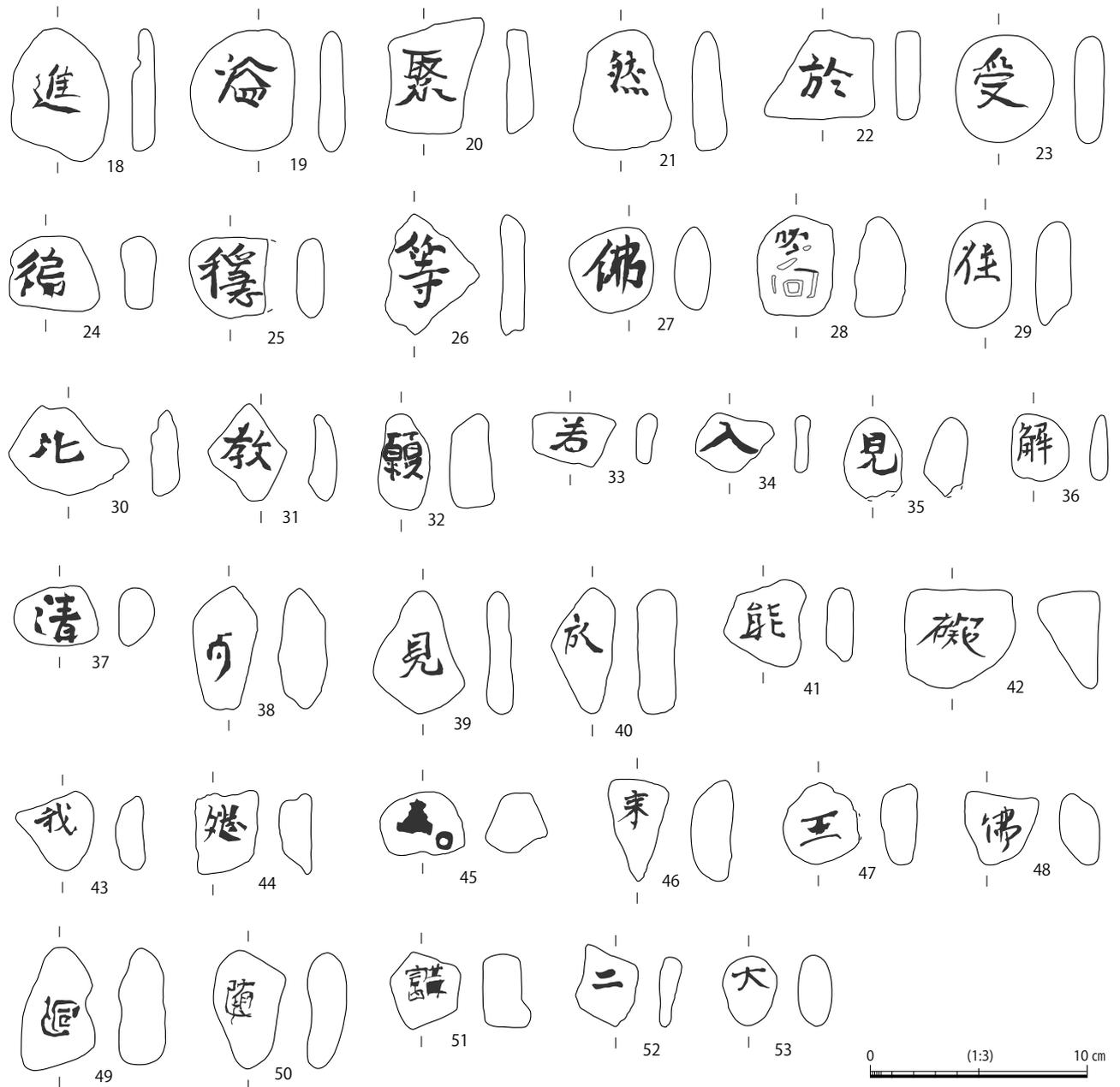
2 (裏面)

図版1・2. 2 礫石経写真

第1表. 布勢山王山の礫石経 (一覧)

△: 残存値

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	945-001	罽カ	4.4	3.3	1.9	34
2	945-002	表: □ 裏: 恵心僧都	5.4	4.2	2.2	84
3	945-003	□	6.3	4.6	1.6	70
4	945-004	形	3.0	2.5	1.5	16
5	945-005	者 ※不明墨痕あり	5.5	2.7	2.3	38
6	945-006	得カ禪カ	4.6	4.1	2.5	53
7	945-007	甲	4.4	4.2	1.7	43
8	945-008	肴カ	5.1	3.3	2.1	50
9	945-009	南無阿弥 □□	7.0	4.8	1.3	58
10	945-010	南無阿弥 □□	6.6	4.4	2.5	87
11	945-011	普	5.8	3.3	2.0	64
12	945-012	種	3.9	3.8	0.9	19
13	945-013	□	4.1	2.5	1.9	28
14	945-014	修	3.8	2.5	1.3	15
15	945-015	楽	3.8	3.0	1.7	26
16	945-016	過	5.0	2.5	1.9	35
17	945-017	保	4.4	△2.5	1.7	23
平均値			4.9	3.5	1.8	43.7



第2図. 船磯の礫石経 (実測図)

など浄土三部経が想定される。

S 2 の裏面に記載されている「恵心僧都」について、当館の所蔵する『寺社方日記』に記載がある。

資料1 鳥取県立博物館 0000066712 寺社方日記
安永6年3月28日

一高草郡布施村山王権現之社地へ有之候恵心僧都、願主有之候而、再興願、聞届ル。

資料2 鳥取県立博物館 0000066728 寺社方日記
安永6年4月18日

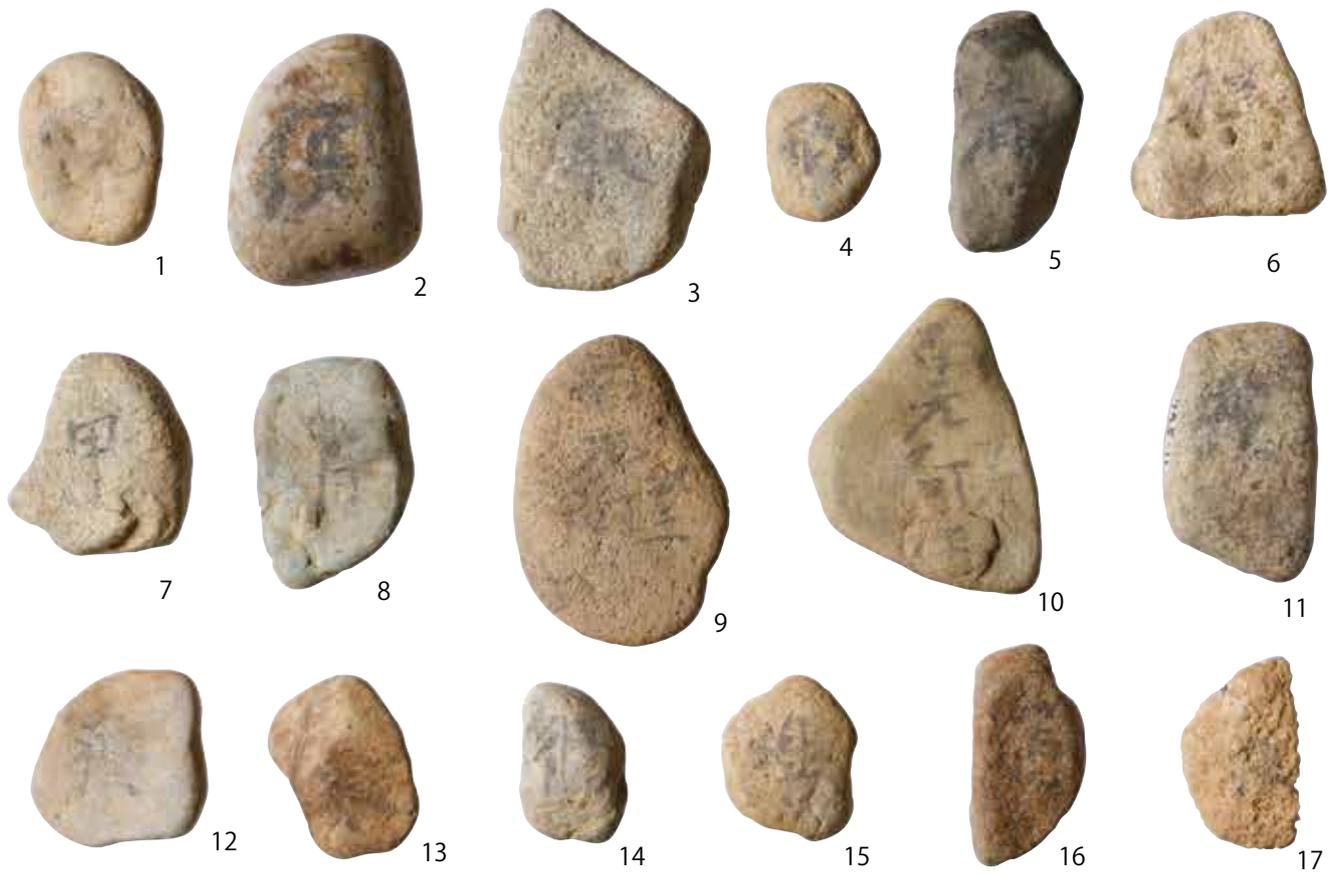
一高草郡布施村山王之社地、恵心僧都清メ願、聞届ル。

これによると安永6年(1777)3月28日、もともと布施村には恵心僧都に関する堂または小祠など何らかの施設があり、今は無いので再興したいとの願いが

出て許されている⁽¹⁰⁾。さらに同年4月18日、再興のため「清め」を行いたいと願い出て許されている。建物の地鎮としても礫石経が埋納される例があることから⁽¹¹⁾、施設の再興の際に礫石経が使われたと考えられる。礫石経は宇山西側丘陵の際から出土しており、経碑は確認されていないことから、施設の周囲に埋納されていた可能性がある。

2 船磯出土の礫石経

船磯出の礫石経は、昭和38年(1963)に長尾鼻の国道改修工事中に窟観音の堂宇の前より出土した。この堂宇は勝見名跡誌に掲載されている⁽¹²⁾。工事の際に経碑は集落の墓地に移転し、礫石経もその下に再埋



図版 3. 布勢山王山の礫石経



図版 4. 船磯の礫石経①



図版 5. 船磯の礫石経②

納されたが、一部は当館に寄贈された。

経碑は方柱であるが、慶応3年(1867)再興されているため、当初の経碑ではない。正面には「大乘妙典全部一字一石供養塔 天下泰平 国土安穩 風雨和□ 萬民沢楽」、左側面には「安永七戊 戊歳 発願主 播州産 斧仙苾□」、右側面には「維時慶應三丁卯 星五月日 再勸発 鳥府産 眼龍頭陀 奉寄進 當浦 若連中」とある。

これによると安永7年(1778)に播州出身者が建て、慶應3年(1867)に鳥取の僧と船磯の若連中により建て直されたことが分かる。

礫石経は36点あり、全てに墨痕が認められた。多くは一文字であるが、文字として判読できない絵画的な表記が1点ある。礫の法量は、平均値で長径4.3cm、短径3.5cm、厚さ1.6cm、重さは33.8gである。小型の丸石もあるが多くは比較的大ぶりの礫で、丸石と角のある礫がある。

S18は「進」、S19は「溢カ」。S20は「聚」、S21は「然」、S22は「於」、S23は「受」。S24は「徧」、S25は「穩」、S26は「等」、S27は「佛」。S28は「篙カ」。上側は不明瞭ながら竹冠か。墨が尽きたのか一部の線を刻んでいる。S29は「往」、S30は「北」、31は「教」、

S32は「願」、S33は「若」、S34は「入」、S35は「見」、S36は「解」、S37は「清」。S38は「市カ」。S39は「見」、S40は「成」、S41は「能」。S42は「礫カ」。S43は「我」。S44は「□」。S45は文字ではない。左側は五輪の空風輪から火輪部、右側は円のようにみえる。S46は「来」、S47は「王」、S48は「佛」。S49は「廻カ」。S50は「随」、S51は「講」、S52は「二」、53は「大」と読める。

一般的には礫石経の原典は法華経が多く、大河原経塚でも1万8千点あまりの経石を判読し、原典は「法華三部経」(「妙法蓮華経」・「無量義経」・「佛説観普賢菩薩行法経」)を中心に書写したと報告している⁽¹³⁾。船磯の礫石経は、判読し得る文字は全て「法華三部経」にあり、経碑にも大乘妙典とある。

3 小沢見出土の礫石経

小沢見の礫石経は、国道改修工事で経碑を移建する際、下から多数の礫石経が出土した。多くは現在の経碑の下に再埋納されたが、一部は平成7年(1995)3月、当館に寄贈された。

経碑は多宝塔で、上段から「王経」、「一字・一石」、中段に「護・國・宝・塔」、下段に「万人講・造立」、「村

第3表. 小沢見の礫石経1 (写真掲載)

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
54	歴338-001	惡	2.3	1.8	0.5	4
55	歴338-002	惡	2.3	1.3	0.5	3
56	歴338-003	意	2.8	2.1	0.7	8
57	歴338-004	為	2.0	1.6	0.5	4
58	歴338-005	一	2.2	2.1	0.7	6
59	歴338-006	有	2.2	1.4	0.2	2
60	歴338-007	化	2.3	1.2	0.2	2
61	歴338-008	介	1.8	1.7	0.6	4
62	歴338-009	願	2.3	2.0	0.4	4
63	歴338-010	喜	1.9	1.6	0.2	1
64	歴338-011	起	2.8	2.0	0.8	8
65	歴338-012	疑	2.5	2.2	0.4	5
66	歴338-013	供	3.8	2.3	1.2	18
67	歴338-014	苦	2.8	2.0	1.0	10
68	歴338-015	求不	2.5	2.3	0.7	9
69	歴338-016	敬	2.3	2.2	0.3	3
70	歴338-017	慶吉	3.9	2.6	1.2	25
71	歴338-018	擊	4.1	2.5	0.3	7
72	歴338-019	決	1.9	1.8	0.4	3
73	歴338-020	言	2.6	1.9	0.7	6
74	歴338-021	口	2.2	1.2	0.8	4
75	歴338-022	香	3.2	2.2	0.5	9
76	歴338-023	講	3.6	2.1	0.8	11
77	歴338-024	獄	2.0	1.4	0.4	3
78	歴338-025	塞	1.8	1.8	0.3	2
79	歴338-026	在	2.9	1.3	0.4	3
80	歴338-027	薩	4.5	1.4	0.7	13
81	歴338-028	薩	2.2	1.2	0.6	3
82	歴338-029	使	3.0	1.8	1.0	9
83	歴338-030	時	2.5	2.2	0.9	9
84	歴338-031	實	3.0	2.4	0.3	5
85	歴338-032	若	3.2	3.1	0.9	16
86	歴338-033	若	2.1	1.8	0.6	5
87	歴338-034	衆	4.2	3.1	0.4	13
88	歴338-035	周	3.0	2.0	0.6	7
89	歴338-036	受	3.0	1.9	0.4	4
90	歴338-037	重	2.7	2.3	1.0	12
91	歴338-038	從	2.5	1.9	0.9	7
92	歴338-039	書	2.7	1.7	0.5	4
93	歴338-040	所	2.6	2.2	0.9	9
94	歴338-041	所	3.6	2.0	0.7	10
95	歴338-042	諸	1.8	1.5	0.6	3
96	歴338-043	如	2.0	1.1	0.1	1
97	歴338-044	生	2.9	1.8	0.9	8
98	歴338-045	將	2.6	2.4	0.5	6
99	歴338-046	淨	3.3	2.0	1.1	12
100	歴338-047	人 ■ (誤記か)	2.0	1.8	0.6	4
101	歴338-048	甚	3.4	2.5	0.7	11
102	歴338-049	盡	3.2	2.0	0.5	4
103	歴338-050	數	2.6	1.9	0.6	6
104	歴338-051	清	4.9	2.9	0.6	8
105	歴338-052	成	2.5	1.9	0.6	7
106	歴338-053	是	2.5	1.7	0.3	2
107	歴338-054	說 ■ (誤記か)	2.4	2.0	0.8	6
108	歴338-055	叢	3.7	2.6	0.8	14
109	歴338-056	藏	3.3	2.5	1.1	15
110	歴338-057	知	2.7	1.8	1.0	9
111	歴338-058	中	4.6	2.9	0.7	16
112	歴338-059	中	2.5	2.0	0.6	6
113	歴338-060	通	3.2	2.0	0.5	6
114	歴338-061	天	2.3	1.7	0.7	5
115	歴338-062	殿	2.1	1.5	0.5	3
116	歴338-063	當	2.8	2.5	0.6	9
117	歴338-064	同	2.9	2.6	0.8	8
118	歴338-065	道	3.2	2.0	0.3	5
119	歴338-066	得	2.0	1.8	0.7	5
120	歴338-067	難	3.2	1.9	0.7	7
121	歴338-068	尼	3.7	2.0	0.7	9

第4表. 小沢見の礫石経2 (写真掲載)

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
122	歴338-069	惱	2.3	1.7	0.4	3
123	歴338-070	能	2.3	1.8	0.5	5
124	歴338-071	能	3.0	2.6	0.4	7
125	歴338-072	波	2.5	1.8	0.4	3
126	歴338-073	發	3.1	2.3	0.5	7
127	歴338-074	佛	4.5	3.1	0.6	17
128	歴338-075	佛	4.9	2.5	0.8	17
129	歴338-076	佛	4.3	3.1	0.3	8
130	歴338-077	佛	2.0	1.7	0.4	3
131	歴338-078	菩	3.0	2.5	0.6	10
132	歴338-079	菩	2.2	1.9	0.7	6
133	歴338-080	方	2.5	2.0	1.0	9
134	歴338-081	方	1.8	1.5	0.5	3
135	歴338-082	法	2.6	1.7	0.4	3
136	歴338-083	法	2.7	2.4	0.2	4
137	歴338-084	法	2.5	2.1	0.6	6
138	歴338-085	寶	2.6	2.3	0.6	6
139	歴338-086	寶	3.5	2.5	0.7	11
140	歴338-087	摩	2.5	2.1	0.7	7
141	歴338-088	蜜	2.2	1.2	0.1	1
142	歴338-089	滅	2.3	1.8	0.2	2
143	歴338-090	目	3.0	2.6	1.4	15
144	歴338-091	羅	2.6	2.0	0.5	6
145	歴338-092	來	2.9	2.3	0.5	6
146	歴338-093	龍	3.0	2.0	0.9	11
147	歴338-094	或	3.2	2.4	0.7	12
	平均値		2.8	2.0	0.6	7.2

第5表. 小沢見の礫石経3 (表のみ)

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
148	歴338-095	有	2.0	1.5	0.9	5
149	歴338-096	雨力	3.3	2.5	0.3	5
150	歴338-097	横力	2.4	1.8	0.2	3
151	歴338-098	應力	3.6	2.0	0.6	9
152	歴338-099	華力	2.3	1.3	0.6	4
153	歴338-100	我	2.3	1.9	0.3	3
154	歴338-101	界	2.5	1.7	0.3	4
155	歴338-102	會力	3.0	1.9	0.3	5
156	歴338-103	懷力	2.9	2.2	0.8	9
157	歴338-104	間	2.7	1.8	1.0	9
158	歴338-105	間	3.3	2.1	0.9	11
159	歴338-106	久	2.1	1.7	0.5	4
160	歴338-107	共	3.0	1.7	0.9	9
161	歴338-108	供	3.2	1.7	0.6	6
162	歴338-109	俱	2.8	2.6	0.7	8
163	歴338-110	空力	3.4	1.7	0.8	8
164	歴338-111	經	2.7	2.3	0.6	8
165	歴338-112	慶放	2.8	2.4	0.5	7
166	歴338-113	偈	2.3	1.9	0.8	6
167	歴338-114	眷	2.2	1.5	0.3	3
168	歴338-115	言力	3.4	2.9	1.1	19
169	歴338-116	廣力	2.0	1.5	0.5	3
170	歴338-117	佐力 陀力	2.2	1.7	0.5	4
171	歴338-118	薩	2.3	1.6	0.2	2
172	歴338-119	此	2.1	1.2	0.3	2
173	歴338-120	時力	1.7	1.6	0.7	4
174	歴338-121	種	2.6	2.0	1.0	9
175	歴338-122	出	3.5	3.1	0.8	13
176	歴338-123	處	2.2	1.7	0.4	3
177	歴338-124	如	2.1	1.3	0.5	3
178	歴338-125	生	2.9	2.0	0.3	3
179	歴338-126	生	2.0	1.2	0.2	1
180	歴338-127	生力	3.0	2.2	0.7	9
181	歴338-128	勝力	2.5	1.6	0.9	6
182	歴338-129	淨	2.8	2.2	0.9	9
183	歴338-130	辱	2.3	1.8	0.5	4
184	歴338-131	盡	4.0	2.2	0.3	5

第6表. 小沢見の礫石経4 (表のみ)

No.	登録番号	所見	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
185	歴338-132	世カ	2.2	2.2	0.5	4
186	歴338-133	是カ	1.5	1.3	0.4	2
187	歴338-134	星カ	2.6	1.5	1.8	6
188	歴338-135	精	3.2	2.6	0.9	11
189	歴338-136	説カ	2.3	1.5	0.3	2
190	歴338-137	仟カ	2.2	1.8	0.7	5
191	歴338-138	善	4.1	2.3	0.6	11
192	歴338-139	相カ	2.9	1.9	1.1	7
193	歴338-140	尊	2.4	1.8	0.6	6
194	歴338-141	多	1.8	1.6	0.8	4
195	歴338-142	短	2.6	1.6	0.7	6
196	歴338-143	男カ	2.5	1.9	0.7	7
197	歴338-144	展	2.0	1.4	0.6	3
198	歴338-145	等	3.2	3.1	0.5	8
199	歴338-146	二	2.8	1.9	0.5	5
200	歴338-147	能	3.1	2.1	1.0	12
201	歴338-148	婆	2.1	1.5	0.5	3
202	歴338-149	悲	3.3	2.5	0.4	9
203	歴338-150	不	2.7	1.7	0.7	6
204	歴338-151	佛	2.6	1.5	0.4	4
205	歴338-152	佛	3.6	1.4	0.3	4
206	歴338-153	壁カ	2.7	2.0	0.7	7
207	歴338-154	菩	2.6	1.3	0.8	5
208	歴338-155	法	3.3	2.6	1.0	14
209	歴338-156	満	3.4	1.8	0.6	7
210	歴338-157	満	3.3	1.9	0.8	9
211	歴338-158	唯	2.2	1.8	0.3	3
212	歴338-159	立カ	2.0	1.8	0.7	5
213	歴338-160	□	2.9	2.0	0.5	5
214	歴338-161	□	3.5	3.0	1.5	26
215	歴338-162	□	3.1	2.8	0.3	7
	平均値		2.7	1.9	0.6	6.4

中合力」、「安政三（1856）龍舎」、「丙辰・六月日」とある。

寄贈された礫石は492点である。内訳は、墨痕の有無が不明なもの142点、墨痕を認めるものの文字として判読できないものが188点ある。文字として判読できたものは162点あり、このうち文字が比較的鮮明な94点の写真を掲載し、68点は一覧表のみ作成した。

多字はなく、基本は一文字であるが、No.68・70・165・170は礫の両面に文字があり、No.100・107は誤記なのか片面を墨で塗りつぶしている。礫の法量は、平均値で長径2.7～2.8cm、短径1.9～2.0cm、厚さ0.6cm、重さは6.6gである。小ぶりの丸石が多く、表面は滑らかでよく磨かれている。中には書写した後に油などを塗布したのか、表面に光沢をもつ礫もある。

経典については、判読し得る文字は、61の「介」以外は全て「法華三部経」に認められる。経碑には「王経」とあるものの具体的な経典について記載はない。

安永年間の布勢山王山と船磯と安政年間の小沢見の礫石経を比較すると、安永年間の礫の法量が大きく角のある礫を使用しているが、安政年間では、ややばらつきがあるものの丸い小礫が多く、文字も整っているように見える⁽¹⁴⁾。ただし類例が限られているため、使用した礫の採取先も含めて検討が必要である。



図版6. 小沢見の礫石経①

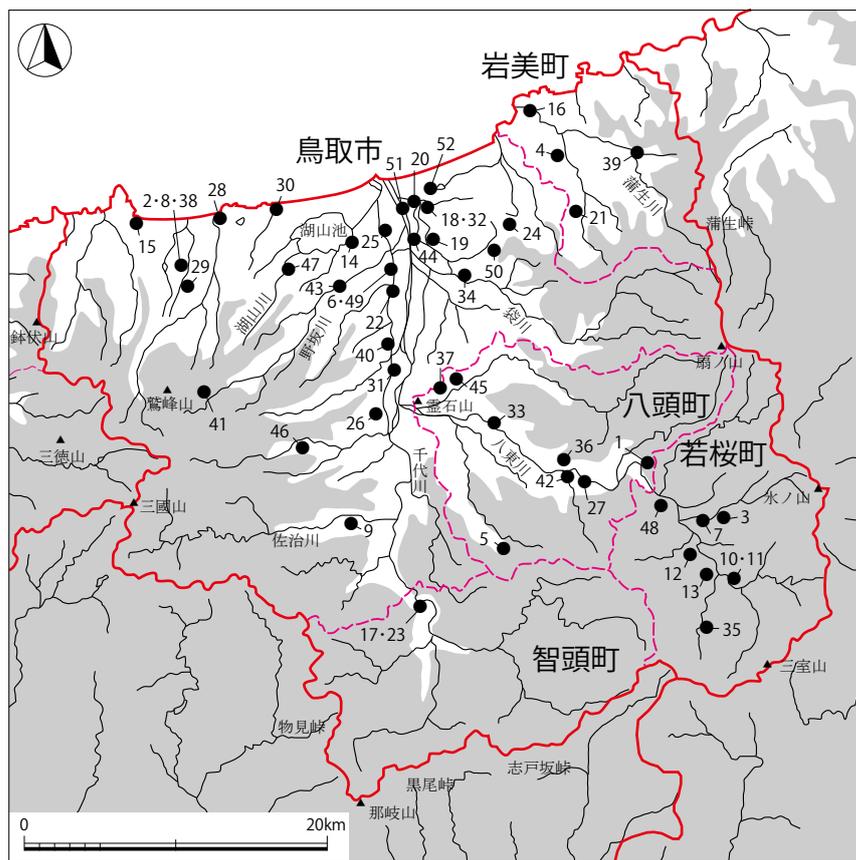


図版7. 小沢見の礫石経②



図版8. 小沢見の礫石経③

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 八頭町用呂 (祥雲寺) | 28 鳥取市気高町浜村 |
| 2 鳥取市鹿野町寺内 (長安寺) | 29 鳥取市鹿野町今市 (松泉寺) |
| 3 若桜町湯原 (永雲寺) | 30 鳥取市小沢見 |
| 4 岩美町岩常 | 31 鳥取市河原町布袋 |
| 5 八頭町下野 (能引寺) | 32 鳥取市湯所町 (天徳寺) |
| 6 鳥取市下味野 (永楽寺裏) | 33 八頭町西御門 (仁王堂) |
| 7 若桜町長砂 (旧永福寺) | 34 鳥取市雲山 |
| 8 鳥取市鹿野町寺内 (長安寺) | 35 若桜町吉川 (吉祥寺) |
| 9 鳥取市佐治町 (廣徳寺) | 36 八頭町新興寺 (新興寺) |
| 10 若桜町中原 (加地) | 37 八頭町福本 |
| 11 若桜町中原 | 38 鹿野町寺内 (長安寺) |
| 12 若桜町糸白見字前田 | 39 岩美町長谷 |
| 13 若桜町岩屋堂 | 40 鳥取市長谷 |
| 14 鳥取市布勢山玉山 | 41 鳥取市河内 (正福寺) |
| 15 鳥取市気高町八束水 (船磯) | 42 八頭町才代 |
| 16 岩美町岩本 (観照院) | 43 鳥取市下段 |
| 17 智頭町市瀬 (個人宅) | 44 鳥取市新品治町 (学成寺) |
| 18 鳥取市湯所町 (天徳寺) | 45 八頭町下門尾 (青龍寺) |
| 19 鳥取市戎町 (一行寺) | 46 鳥取市河原町弓河内 |
| 20 鳥取市丸山町 | 47 鳥取市吉岡温泉町 |
| 21 岩美町池谷 (瑞泉寺) | 48 若桜町若桜上町 (蓮教寺) |
| 22 鳥取市竹生 | 49 鳥取市下味野 |
| 23 智頭町市瀬 | 50 鳥取市滝山 |
| 24 鳥取市百谷 | 51 鳥取市田島 |
| 25 鳥取市安長 (東門寺) | 52 鳥取市覚寺 |
| 26 鳥取市河原町谷一木 | |
| 27 八頭町東 (東庵堂) | |



第3図. 県東部の礫石経関係箇所.



図版9. 祥雲寺の経碑.



図版10. 船磯の経碑.



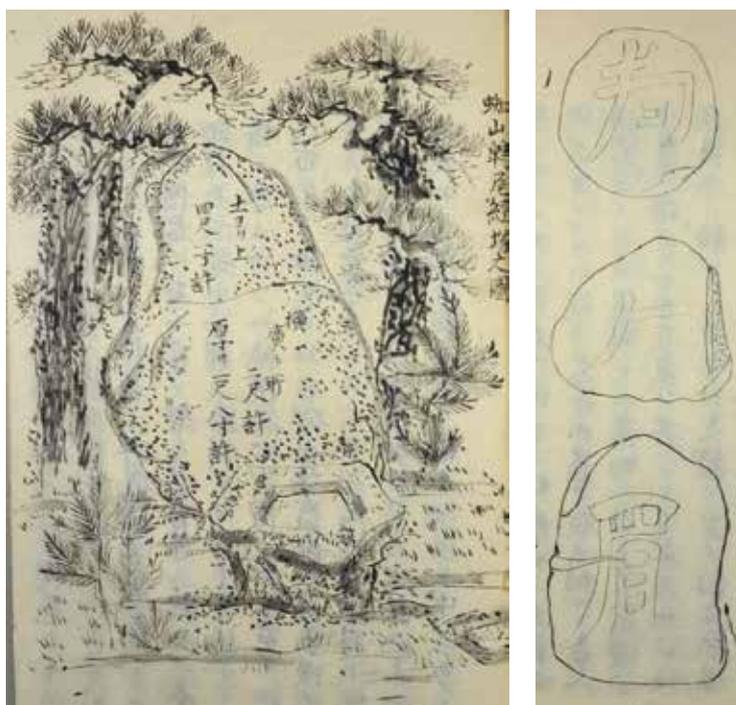
図版11. 小沢見の経碑.

第7表. 県東部の礫石経関係箇所.

No.	和 暦	西暦	所 在	塔種・塔名ほか	願主・施主ほか	経 碑	文 献
1	貞享3年	1686	八頭町用呂(祥雲寺)	奉石書大乘妙典塔	日秀和尚造	割 石	
2	元禄2年	1689	鳥取市鹿野町寺内 (長安寺)	大乘妙典讀誦千部石書一部讓伝…	…十八世日秀斐造建	自然石	
3	元禄3年	1690	若桜町湯原(永雲寺)	奉石書大佛須首楞嚴經一部 塔	當寺旦那有縁	自然石	
4	元禄7年	1694	岩美町岩常	奉石書大乘妙典 ※耳塚再興	小林次郎右門	自然石	因幡志
5	宝永5年	1708	八頭町下野(能引寺)	純圓獨妙経長□書写若干部奉納焉 書写之石功 徳主禪黙 ※礫石経は本堂の本尊真下から出土	純圓	自然石	因幡志 三谷1979
6	正徳2年	1712	鳥取市下味野 (永楽寺裏)	奉□納一石一字大乘浄土… 奉書写一石一字大乘妙典…	修行成就…	方 柱	
7	正徳3年	1713	若桜町長砂(旧永福寺)	大乘妙典一部石書一石一字塔	二世大龍院長盛建之	自然石	伊藤2018
8	正徳5年	1715	鳥取市鹿野町寺内 (長安寺)	大乘妙典一部一石書写	中原与平建	自然石	
9	享保8年	1723	鳥取市佐治町(廣徳寺)	奉石書妙典 ※塚あり	不明	方 柱	さじ文化財 協会2024
10	延享元年	1744	若桜町中原(加地)	大乘経王一石一字書納塔	立禅□	宝 塔	伊藤2018
11	宝暦6年	1756	若桜町中原	奉石書大乘妙典塔	永藁五世榮寿書	自然石	
12	明和2年	1765	若桜町糸白見字前田	奉石書大乘妙典	願主當村委治良	自然石	
13	安永2年	1773	若桜町岩屋堂	奉石書大乘妙典塔	願主□□	自然石	
14	安永6年頃	1777	鳥取市布勢山王山	礫経石 ※昭和19年(1944)出土	恵心僧都か	経碑不明	三谷1979
15	安永7年	1778	鳥取市気高町八束水 (船磯)	大乘妙典全部一字一石供養塔 ※慶応3年(1867)再興	発願主播州産斧仙芯 □	方 柱	三谷1979 伊藤2018
16	寛政3年頃	1791	岩美町岩本(観照院)	法華全部 一字一石一禱 ※法華塔の年から	不明	方 柱	
17	寛政11年	1799	智頭町市瀬(個人宅)	大乘妙典一字一石書写 供養塔	不明	切 石	伊藤2018
18	享和3年頃	1803	鳥取市湯所町(天徳寺)	大乘妙典一字一石 ※六地藏の年から	施主連名	宝篋印塔	伊藤2018
19	文化2年	1805	鳥取市戎町(一行寺)	書写同(大乘妙典)経一部一石一字 供養塔	願主百谷屋又吉造立	宝 塔	伊藤2018
20	文化3年	1806	鳥取市丸山町	奉納大乘妙典一字一石供養塔	米屋伊右衛門	方 柱	伊藤2018
21	文化3年	1806	岩美町池谷(瑞泉寺)	常夜灯 大乘経 一字□□	連名	常夜灯	伊藤2018
22	文化4年	1807	鳥取市竹生	南無妙法蓮華経 書写一石一字妙典全部 供養 塔	竹生村講中	自然石	伊藤2018
23	文政2年再興	1819	智頭町市瀬	本願経一部一字一石塔	若連中	地 蔵	伊藤2018
24	文政5年	1822	鳥取市百谷	大乘妙典一字一石 仁王般若一字一石 金光明経一字一石	願主祖活ほか	宝篋印塔	伊藤2018
25	天保7年	1836	鳥取市安長(東円寺)	大乘妙典一字一石 護国塔 ※明治5年(1872)再建	願主鈴木花郷	宝 塔	伊藤2018
26	嘉永元年	1848	鳥取市河原町谷一木	南無妙法蓮華経 …妙経全部書石以投于河而欲救彼能…	近藤斐五郎	方 柱	伊藤2018
27	嘉永5年	1852	八頭町東(東庵堂)	法華塔 一字一石 一石寄附自覚上座	世話人智明禪尼	自然石	伊藤2018
28	嘉永7年	1854	鳥取市気高町浜村	一石一字 血盆経理 ※川六作(24)	丹州産 龍禅立	地 蔵	伊藤2018
29	安政2年	1855	鳥取市鹿野町今市 (松泉寺)	圓滿 法華経八軸 一字一石書写	…宗芳建之	地 蔵	
30	安政3年	1856	鳥取市小沢見	王経 一字一石 護国宝塔	万人講造立	多宝塔	伊藤2018
31	安政6年	1859	鳥取市河原町布袋	□□□一字一石塚	願主連盟	自然石	伊藤2018
32	文久元年	1861	鳥取市湯所町(天徳寺)	法華経供養塔 経王八軸一字一石	施主連名	宝篋印塔	伊藤2018
33	慶応元年	1865	八頭町西御門(仁王堂)	大乘妙典一字一石納骨塔	天祐六世當庵…	地 蔵	伊藤2018
34	寛政以前	—	鳥取市雲山	立岩(伝恵心僧都経塚) ※塚あり	伝恵心僧都(源信)	自然石	因幡志 伊藤2018
35	近世か	—	若桜町吉川(吉祥寺)	石書 妙法華 寶篋印 経	連名	自然石	
36	近世か	—	八頭町新興寺(新興寺)	礫経石 ※昭和38年(1963)東隣高山神社横より出土	不明	経碑不明	三谷1979 関1990
37	明治4年	1871	八頭町福本	南無妙法蓮華経 一字一石	世話人連名	切 石	伊藤2018
38	明治5年	1872	鹿野町寺内(長安寺)	法華経八軸 一字一石書写	本願主法輪常転	地 蔵	
39	明治9年	1876	岩美町長谷	一字一石法華塔	台宗舜徴大和尚拜写	自然石	伊藤2018
40	明治16年	1883	鳥取市長谷	南無妙法蓮華経 一字一石	連名	方 柱	伊藤2018
41	明治17年	1884	鳥取市河内(正福寺)	報恩塔 真言十万遍讀誦一字一石	願主慈萬北垣弘應	自然石	
42	明治20年	1887	八頭町才代	南無妙法蓮華経 一字一石塔	不明	方 柱	伊藤2018
43	明治20年	1887	鳥取市下段	南無妙法蓮華経 一字一石	世話人連名	自然石	伊藤2018
44	明治21年	1888	鳥取市新品治町(学成 寺)	南無妙法蓮華経 一字一石塔	三軒屋吉村	自然石	伊藤2018
45	明治25年	1892	八頭町下門尾(青龍寺)	南無妙法蓮華経 一字一石	下門村若連中ほか	自然石	三谷1979 伊藤2018
46	明治28年	1895	鳥取市河原町弓河内	法華経一字一石塔 ※大正十年(1921)移転	竹内とめ	自然石	伊藤2018
47	明治29年	1896	鳥取市吉岡温泉町	南無妙法蓮華経 一字一石之塔	世話人 當村花房清 十郎	自然石	伊藤2018
48	明治33年	1900	若桜町若桜上町(蓮教 寺)	南無妙法蓮華経 妙教写一字一石埋…	施主 清水安蔵英治	自然石	伊藤2018
49	大正4年	1915	鳥取市下味野	般若塔 拜書一字一石大乘浄土三部経一部	施主寛雄平	方 柱	
50	大正8年	1919	鳥取市滝山	南無妙法蓮華経一字一石塔	谷口富建之	方 柱	
51	昭和4年移転	1929	鳥取市田島	南無妙法蓮華経 妙経一字一石塔	本郷儀作建	方 柱	
52	昭和15年	1940	鳥取市寛寺	心経一字一石塔	無聲得聞禪尼建之	自然石	



第4図. 岩常の経碑『因幡志』から転載.
(鳥取県立博物館所蔵)



第5図. 雲山の経碑と礫石経『因幡志』から転載.
(鳥取県立博物館所蔵)

4 県東部の礫石経と経碑

(1) 経碑の分布と時期

県東部には少なくとも52か所の経碑または礫石経出土地がある(第7表)。

1～4の4か所は17世紀末である。経碑はいずれも自然石または割石を使用している。経碑には「一字」「一石」はないものの、「大乘妙典」と「奉石書」とあり、古い段階の経碑と考えられる。3の岩美町岩常の経碑は、『因幡志』の古墳之部に「耳塚」として経碑が模写されている(第4図)。

5～10の6か所は18世紀前半である。自然石のほか方柱や宝塔がある。経碑に「一石一字」と記載される経碑が多い。5の能引寺では経碑の近くからではなく、本堂の本尊直下の土中から7万個弱の礫石経が出土した(15)。『因幡志』に「下野村」女墓並経塚として記載があるものの、本堂の下から出土した礫石経との関係は不明である。

11～17の7か所は18世紀後半である。この頃までは鳥取城下から離れた地域に多い。経碑は自然石と方柱が主体で、経碑には「一字一石」が主体となる。

18～33の16か所は19世紀前半から幕末までの間である。この時期以降、鳥取城下周辺で多くなる。方柱のほか、宝篋印塔、常夜塔、地藏もある。

34～36の3か所は年代が特定できないものの近世とみられる。34の雲山の立岩は『因幡志』の成立した寛政期以前に建てられている。35の若桜町吉川の

経碑の年代は不明ではあるが、自然石に「石書」とあるので18世紀以前であろう。36の八頭町新興寺の礫石経は近世と評価されている(16)。

37～52の16か所は近代以降である。明治には12か所、大正時代には2か所、昭和には2か所あり、明治時代に多く造立される。

変遷をみると、題目に記された経典は当初は大乗妙典及び法華経が多いものの浄土三部経など他経や複数の経典の書写も行われている。経碑は17世紀末から18世紀にかけて八頭町から若桜町、岩美町、鳥取市気高町に多く、19世紀以降は鳥取平野を中心に分布する。経碑は当初は「石書」、次に「一石一字」となり、その後「一字一石」が定着する。18世紀末頃の『因幡志』の記載は「一石一字」である(17)。明治以降には「南無妙法蓮華経」の題目表記が主体となる。

(2) 礫石経の目的

礫石経の確認された場所と経碑の関係をみると、大河原経塚では交通路との関係を重視している(18)。船磯と小沢見は海との関係が想定される。嘉永元年(1848)に造立された東近藤家の一字一石塔(宝塔)では千代川筋と水死人に対する供養塔として企画され、経石流として投入された(19)。能引寺では本堂建て替えの際に本尊の直下から出土しており、位置的にみて地鎮の意味合いがあるようである(20)。

経碑の立地は川沿いまたは街道筋の寺院内に多い。礫石経は書写しただけでは礫のままであり、回向する

必要がある⁽²¹⁾。そのため寺院との関係は必須であるが、寺院の宗派には多寡がある⁽²²⁾。願者は僧や信者の関係者が多く、修行の成就、清めなどがある。寺院外では連名ほか講、若連中など、地域的な繋がりで建てられるものもある。なお布勢山王山や鳥取市雲山(第5図)ではいずれも恵心僧都(源信)への篤い信仰がうかがわれる。ほか鳥取市気高地域の船磯や浜村に発願主として他地域出身者の名が記され、地域間の関わりを考えるうえで注目される。

おわりに

当館の所蔵する資料のうち礫石経について取り上げた。礫石経および経碑については、歴史、考古、民俗など多分野からの追及が可能である。礫石経に関する資料は今後も増えることが予想される⁽²³⁾。

礫石経は幅広い近世以降の信仰について知ることのできる貴重な一分野である。埋経の有無は明らかではないものの経碑は比較的身近な場所に建てられているので、関心を持っていただければ幸いである。

【註】

- (1) 松原典明「一 礫石経研究序説」(立正大学考古学会『考古学論究』第3号、1994年)、および『近世宗教考古学の研究』雄山閣、2009年。
- (2) 安倍恭庵『因幡志』、通説では寛政7年(1795)の成立。礫石経の図も掲載している。
- (3) 三谷巍「石とくらし(3)～石に書かれた経文～」(鳥取県立博物館『郷土と博物館』第25巻第1号(通巻49号)1979年。)ほか県中部の北栄町北尾出土、倉吉市矢送出土、琴浦町法万出土、三か所の礫石経を紹介している。
- (4) 『大河原経塚』-大河原1字1石経塚発掘調査報告書一、関金町文化財調査報告書第3集(関金町教育委員会、1985年)。45,093石を採取し、文字が読み得た18,366石から、法華三部経(『無量義経』、『妙法蓮華経』、『仏説観音賢菩薩行法経』)を中心に書写されていた、とある。
- (5) 『妻波古墓』-発掘調査報告書一、大栄町文化財調査報告書第21集(大栄町教育委員会、1985年)
- (6) 是光吉基「7 中国」、立正大学考古学会『考古学論究』第3号、1994年。
- (7) 伊藤康晴「資料紹介 一字一石塔(宝塔)の造立過程～高草郡竹生村東近藤家文書より～」『鳥取県立博物館研究報告』第55号、2018年。
- (8) 奈良文化財研究所のデータベース、「布勢経塚(Rec No.:127559)」。
- (9) 恵心僧都は平安時代の僧である源信(942～1017)の尊称。比叡山(天台宗)横川の恵心院に入山した。浄土教の祖とされる。
- (10) 『因幡志』布勢村に「恵心僧都之像同墓」とある。ここに安置されたとみられる恵心僧都の像は、文化十三年(1815)に開帳されたとの記録があるものの、現在は不明である。松保郷土誌編集委員会『松保郷土誌』1995年。
- (11) 有富由紀子2004「礫石経埋納と地鎮・鎮壇」『江戸の祈り 信仰と願望』吉川弘文館。
- (12) 上野忠親『勝見名跡誌』の巻五に窟観音の縁起が記されている。宝暦年間頃、18世紀の中頃の著作であり、礫石経や経碑に関する記載はない。
- (13) (5) 文献。
- (14) 『因幡志』雲山の立岩(第5図)には「皆皆(礫石経)方圓長短あり小は一寸より大は二三寸に至る」とあり、ばらつきがあるものの、小さいものが約3cm、大きいものは9cm程とある。
- (15) 「虎石山能引寺 町指定文化財(経石)」八頭町のホームページから。
- (16) 関秀夫1990『経塚の諸相とその展開』雄山閣
- (17) 寛政期は「一石一字」と「一字一石」が混在している時期のため、意図的に古い呼称を用いた可能性がある。
- (18) (4) 文献。
- (19) (7) 文献。
- (20) 礫石経の出土した経緯は能引寺住職、苔堂虚秀氏の教示による。また礫石経の写真は、鳥取県埋蔵文化財センター『歴史時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財シリーズ4、に掲載されている。
- (21) (7) 文献。
- (22) 礫石経および経碑に関わるとみられる寺院の現在の宗派と、寺院外ではあるが記録などから推測できるものを含めると24か所ある。内訳は日蓮宗3か所、天台宗3か所、真言宗3か所、浄土宗1か所、臨済宗2か所、曹洞宗12か所で、法華経を重視する曹洞宗に多い傾向がある。
- (23) 近年では石造物の再調査で、第7表9にある鳥取市佐治町の廣徳寺の経碑が取り上げられている。さじ文化財協会2024『佐治町の石造物』佐治町郷土文化シリーズ50。
- (24) 第7表中。鳥取市あおや郷土館『没後150年記念 川六 一因州が誇る幕末の名石工一』公益財団法人鳥取市文化財団あおや郷土館、2016年。